

よりそう

Side by Side



第63号

編集責任：延藤

編集担当者 延藤 延藤

震災はまだ終わっていない

23日13時34分に宮城県沖を震源とする地震があり、遠野市で最大震度5強を観測した。活動地である釜石、陸前高田、大槌の三市町でも震度4の地震があり、作業の中断・中止となった際もあった。7月10日の宮城県沖の地震では津波注意報が発令されるなど、今後も活動中に大きな地震が発生する可能性はきわめて高い。

思うに、被災地に来て三、四日もすれば状況に慣れてくる。作業の要領がわかり、何より景色の見え方が変わってくる。無意識のうちに被災地に自分が馴染んでいくことに気づくこともあるだろう。それは長期的な活動には必要なことであるし必然的なことだ。

しかし、物事に慣れることは危険を含んでいる。われわれが活動するところはあくまで被災地である。多くの人々が命を落とし、おびたしい数の家屋・建物が流されていった。新たに震災に巻き込まれる危険は避けなければならない。あなたが新たな震災に巻き込まれて悲しむのは家族・友人だけではない。被災者も悲しむのだ。

さらに実際に地震が起こった場合に備えて、活動場所では避難経路を確認しておく必要がある。震度や体感だけで津波の有無を判断するのはよそう。すみやかに高台に上る。仮に揺れが弱く注意報程度でほとんど津波の心配がない場合でも、注意・警報が解除され隊長の承諾があるまで荷物などを取り戻すのはいけない。仲間の心配は無用。とにかく自分の身を守ることを考えて行動しよう。

この頃各隊長や古参のメンバーから、ボランティア参加者の意識の低下についての指摘をよく耳にする。朝礼前には受付等でヘルメットや手袋の貸与を求める人の姿も散見され、水を忘れるという人もいる始末。分けた人が水分補給を十全にできずに熱中症に陥ることも考えられる。各隊には予備の水分が用意されているがそれはあくまで緊急事態に備えてのことであり、忘れた人のためではない。

「取敢り七割、仕事三割」という言葉があるが、準備さえしっかりしていればあとは何とかなるものだ。現場・内容によってはたしかにいらぬ道具もあるだろう。それでもいついかなる状況にでも対応できるようにしなければならない。準備自体は難しいことではない。自己完結の意識の低下は、すなわちボランティア精神の衰退だと言える。(文・延藤)

※月曜・木曜は休刊日になります。

まごころ種 募集

くわしくはHPへ

写真展示会

5月中旬より陸前高田市の伝承館にて写真展示会(毎週土・日10時-)のお手伝いに行きました。100名程の方が来場され持ち主不明の40年又程のアルバム、200冊程のミニアルバムの中からご家族や知合いを真剣に探されていました。写真洗浄や修復作業に対する需要は高いです。高校や大学時代の集合写真を見つけた男性、自分の結婚式の写真を見つけたお母さん、本当にうれしそうでした。一方で、展示会に数回来場したものの見つからないという方もおられます。洗浄作業の間に合っていない無数の写真を早く展示するため、作業効率アップ、メンバーの確保などの問題解決の必要性を強く感じました。

* 伝承館：陸前高田市友町字荻荷1-237
tel 0192-56-2911

活動お疲れ様です。。。

笑顔で明日も元気に ☺

合谷 痛みの万能ツボ
手の甲の人差し指の骨のキワ

失眠 全身の血行を良くしリラックス。
不眠・足のむくみ、むくみ
わがやの中心、肉がつかなく
ぶくぶくしているところ

足三里 全身のエネルギーをまく。
とくに消化器系。
ひざ下の骨の出っ張り部の外側

ツボ指導：鍼灸師 奈良

※7/27(水)ボランティアミーティングはPM15:30~の体育館

7/26(火)の宿泊：100人、活動：167人

7/26(火) 天気 晴時々曇

気温 28℃

降水確率 20%